

第8回「日本語大賞」

テーマ「あまり使いたくない日本語・もっと使いたい日本語」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

そんなことないわけないよ

神奈川県
湘南ゼミナール 宮前平教室
小学5年 菱沼 実紘

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

そんなことないわけないよ

湘南ゼミナール宮前平教室 小学五年

菱沼 実紘

「そんなことないよ。」とつい言ってしまう。本当は、そんなことないわけないのに。例えば、私は放課後友達と遊ぶことが好きで、週に二回くらい遊んでいる。だから、一分でも早く遊びに行きたいのにお母さんは勉強を終わらせてから遊びに行きなさいと言う。だから私は、一生懸命勉強をしている。そんな時、お母さんが、「ちゃんと勉強していてえらいね。」と言った。私は「そう？ えらいでしょ。」と言い返す。家族と話している時は、そのことを否定しないで、正直に答える。そして、ようやく勉強が終わり、友達が遊んでいる場所へ向かった。

友達は、おくれてきた私にこう言った。「勉強してから遊ぶなんてえらいよね。」と。そして私は、「そんなことないよ。」と返した。本当は、そんなことないわけないのに……と思った。なぜ、友達と家族では返す言葉が違うのか、不思議に思った。

そういえば、私がこの友達と同じようなことを言った時、友達はやっぱり私と同じように、「そんなことないよ。」と言った。普段、よく自分が使ったり、友達が使っていることがあるけれど、「そんなことないよ」という言葉は、なんとなく、使いやすい言葉だと思った。そして、こんなこともあった。

「リレーの選手になれるかな？」

私は、仲良しの友達と一緒に言い合った。友達は、「大丈夫だよ。」と言ってくれたが、すごく心配だった。

タイム計測の日、私は、とてもきんちようしていた。順番を待っていた時に、二本のクロバーを見つけた。私は、その二本のクロバーに願い事をした。「リレーの選手になれるように。」と。それでもまだ、不安が残っていた。

とうとう順番が回ってきた。前の人が走り出した時、足がふるえていた。実は私は、この日のために朝、公園でスタートダッシュや、走り方の練習をしてきた。「よいスタート。」と先生が言った。私は、フライングをしてしまった。一度目は失敗してしまっただけれど、二度目は練習の成果が発揮できた。

私は願ひ通りリレーの選手になれ、とてもうれしかった。その時、友達が、「すごいね。リレーの選手に選ばれて良かったね。」と言ってくれた。だが、私は、「そんなことないよ。」と言いながら、心では、そんなことないわけないよ。だって、たくさん練習してきたから。と思った。

いつか友達にも、「そんなことないよ。」と言わずに、「うん。ありがとう。」と本心を伝えてみたい。そして、自分の努力を自分で認めていきたい。